



阿波高新聞

5月号
175号

編集
新聞・文芸部

新聞・文芸部員大募集!

私たちと一緒に阿波高新聞やオリジナル部誌を作ってみませんか。文章やイラストを書くのが好きな人、ぜひ新聞・文芸部に入部してください。待っています!
また、阿波高新聞で取り上げてほしい記事等がありましたら、顧問の佐藤先生までお知らせください。

皆さん、こんにちは。五月になり、だんだんと新しい生活に慣れてきましたか?依然として、新型コロナウイルスの感染拡大は止まらず、油断できない状況が続いていますね。そこで、今月号は、新型コロナウイルスについて詳しく説明したいと思います。

○新型コロナウイルス

新型コロナウイルスの感染者が初めて出た日から、一年以上が経過しましたが、感染拡大は止まりません。新型コロナウイルスが流行し始めたころから、年表で確認してみましょう。

二〇二〇年

- 一月十六日ー中国武漢への渡航歴のある神奈川県在住の三十代の中国籍の男性が感染していたことが報告された(日本国内初の感染者)。
- 二月十三日ー日本国内で初の死者が発生。
- 二月二一日ー日本国内の累計感染者数が百人を超えた。
- 二月二七日ー安倍晋三内閣総理大臣(当時)が三月二日から日本全国の小・中・高校と特別支援学校の臨時休校を要請。
- 三月二四日ー国際オリンピック委員会(IOC)と東京二〇二〇組織委員会は、東京二〇二〇大会の延期を発表。
- 四月十六日ー全都道府県に対し緊急事態宣言が発出された。
- 四月十八日ー日本国内の累計感染者数が一万人を超えた。
- 七月二九日ー岩手県内で初めて感染者が確認され、これにより全都道府県で感染者が確認されたこととなる。
- 十二月二二日ー日本国内の累計死者数が三千人を超えた。

二〇二一年

- 一月九日ー日本国内の累計死者数が四千人を超えた。
- 一月二三日ー日本国内の累計死者数が五千人を超えた。
- 二月十七日ー日本国内で新型コロナウイルスのワクチンの接種が開始された。
- 四月十日ー日本国内の累計感染者数が五十万人を超えた。

四月二六日ー日本国内の累計死者数が一万人を超えた。

日本初の死者が発生(二〇二〇年二月十三日)より千人(七月二十八日)まで:五ヶ月以上
千人より二千人(十一月二十四日)まで:約四ヶ月
二千人より三千人(十二月二十二日)まで:約一ヶ月
三千人より四千人(二〇二一年一月九日)まで:十八日間

となり、死者の増加ペースは急速に上がっている。

ざっくり見ただけでも、普通では、あり得ない状況が起こっていることがわかります。こうして、年表にまとまると、数字が並べられているだけに見えるかもしれませんが、コロナで亡くなった方一人ひとりに人生があつて、一瞬にして、未来を奪われた人がいるということを私たちは、決して忘れてはなりません。

徳島県でも、変異株も出現し、今もなお、拡大しています。十万人当たりの感染者数は大阪府や東京都に並んでしまうほど、多いのです。そんな状況の中で、私たちにできること、「不要な外出をしない」という予防法で、今後、もっと拡大しないように、若者の重症化も減らせるようにしていく必要があります。

○端午の節句の由来と秘密

端午の節句とは、五月五日に鯉のぼりをあげて、五月人形や、鎧や兜を飾って、ちまきや柏餅を食べるだけだと思ってる人が多いかと思えます。

しかし、今行われている端午の節句が、中国の文化と日本の文化がミックスされてきていることは知らない人も多いと思います。そのため、五月号では、端午の節句の由来と秘密についてまとめてみたいと思います。

・端午の節句の由来

今から、約二三〇〇年前の中国戦国時代に楚の国の国王の側近に、屈原という政治家がいました。詩人でもあった彼は、その正義感と国を思う情は強く、人々の信望を集めていました。

しかし、屈原は陰謀により失脚し国を追われてしまいました。その時の想いを歌った長編叙事詩「離騷」は中国文学史上、不朽の名作と言われています。

そして、故国の行く末に失望した屈原は、汨羅という川に身を投げてしまったのです。

それを知った楚の国民たちは、小舟で川に行き、太鼓を打つてその音で、魚をおどし、さらにちまきを投げて、「屈原」の死体を魚が食べないようにしたのが由来とされています。

・鎧と兜の秘密

端午の節句は鎧と兜を飾るといイメージを持っている人は多いと思います。

戦場で身を守ってくれる甲冑は武家にとって特に男子にとって大切なものでした。鎧兜は子どもにも災いがふりかからず、無事にたくましく成長するように願いが込められています。しかし、あの鎧と兜は戦いのときに使う武器ではないのです。お節句に飾られる鎧と兜は式典の正装であり、晴れ着です。日本の武士の独特な感性と美意識が表現されている芸術です。

端午の節句には、私たちの知らないことがたくさんあります。今後、もっと日本の伝統行事を勉強すると、新しい発見があるかもしれません。

〈今月の言葉〉

「実力を以て自分が主役(正しい)と証明しなさい
『圧倒的』実力があれば手柄やコネなんて関係なく皆が納得するわ」

〈『憂国のモリアーティ』アイリーン・アドラーより〉

